



世界スカウトの年

(1982 - 2月～1983 - 8月)

日本連盟
創立60周年

撮影：高倉清雄



スカウト運動をより確かに

浜松第20団ローバー隊 隊長 井ノ口泰三

新緑が眩い季節を迎え、スカウト達も希望と期待に胸を膨らませている事でしょう。私達リーダーは、彼等の純真な心に、いかに応えるかも、同時に自覚しなくてはならない。近時青少年の非行は増加の一途をたどり、史上最悪の数字が示されている。この態度を踏え、スカウト運動も対岸の大変と改めた顔ではいられない。要するに、スカウト運動が自分よりの運動であったり、社会に対するゼッチャーであってはならない。真にスカウト運動の真髄を極める努力をリーダーに求め、より深く追求する意欲を持ち、広く世間にこの事に理解と協力を求めようとするアクションを起こしてゆくことも時として必要である。私もそうであるが、この運動の良き事を充分承知しているにもかかわらず、団員の募集をしている点を考えると、一般には、特定集団としての理解しかないのではないか。登録事務を終えて、

ホッとしている諸先輩もそんな考えをお待ちになりませんか。少年達の心と身体を健やかに伸長させ、次代を負う青少年を育成する必要性は、社会も家庭も百も知っているのである。幸い家庭に在る両親を対象に、浜松市教育委員会が今年「家庭教育を考える」と言うテーマで家庭教育の必要性を説き、学力偏重社会にメスを入れようと試みることになった。又一方では、待望久しかった野外活動センターも調査、設計へと推進されてまいります。

心豊かな人間都市づくりは、浜松市の都市発展の終局目標でもありますが、そのため地方の時代はコミュニケーション推進の強化と、地域の連帯を主軸に展開されるといいます。一般市民がより社会教育に目を向けてくる時代にこそ、スカウト運動も家庭はもちろん、学校教育現場にも深い理解を求め、学校、社会、家庭の三者が有機的なかかわりの中で理想的な展開が出来るよう努力を重ねてまいりたいと思います。

第17期 浜松地区班長訓練野営

昭和57年3月21日～24日

於引佐郡渋川・川宇連野営場

班長訓練野営の総括

ボーイ担当副コミッショナー 名倉惣一郎

昨年11月15日ソフトボール大会は浜松1団の優勝で幕を飾りました。その大会が終ると同時に、第17期班長訓練野営の準備が始まりました。

班長訓練野営の為の企画委員会を設立し、各小地区より代表2名、訓練チームより代表3名、内容としては、(1)プログラムの立案、(2)編成について、(3)事前課題(スカウトに対して)、(4)組織表作り(運営と教育)、(5)地区訓練チームメンバーによる各参加リーダーの意思統一を計る為のリーダー研修会開催、班訓成功の万全策を立案企画検討致しました。各小地区隊長中心の事前学習を行いました。学習内容は、各々のテーマに対して、導入(講義)班の討議、発表及び全体討議、まとめと講評。合計6時間の学習、各隊ごと1日のコースで終わりました。スカウト達は、この学習により班長訓練野営に対する心構えが出来た事と思いました。3月21日より4日間の渋川川宇連野営場に於ての野営実修訓練が3泊4日の日程表にもとづいて始まりました。

組織面について、野営長内田時世、教育担当兼副野営長宮沢、教育本部長永田、教育隊長原口、編成隊長名倉、運営担当兼副野営長竹村、トリ隊々長馬場、川隊々長神谷、けもの隊々長太田、野営行事木村、健康安全平山、庶務柴田、献立表作り八木本、で実施致しました。

雨のどしゃ降りの開所式、野営長の身の引きしまる言葉、4日間の無事を祈り、全員道心門をくぐり心を新たに訓練にのぞむスカウトの姿は実に見ていて元気そのものでした。野営実習のプログラムは、各隊々長に一任し、班長の任務、二大制度、宗教的な話、營火については、教育本部より出向した事は昨年と違ったプロの組み方でした。毎日の隊長会議は反省、打合せ、計画と、細心の注意を払いました。

ハイキングについては、コース設定の為、教育本部で下見をし、隊長会議に報告、各隊より数名して下見のコースを検討しながら歩き閑所の場所もきめました。

コースは北に向って進み東海自然歩道に出るまでのけわしい山道、急な登り坂は苦しくて大変苦労致しました。

ちかいのセクションでは「私は名誉にかけて」の名誉

とは何か(宮沢) 誰に「ちかい」をたてるのか(名倉) 「二大制度」とは何か(村松) スカウト達は、大変に頭の体操をさせられた事だと思います。全員が通過出来た事は立派に解答が出来た事で、むつかしい問い合わせられた事は何んとスバラシイ班会議の成果でしょう。しかし、予定の帰隊時間におくれた班がありリーダー同一時心配した事は今度の班訓の一番の反省点だと思います。班訓の反省点を各隊のリーダーに聞きまわり、箇条書きにしたら23点にも及びました。

この23点の反省点を改めたなら、来年の班訓は今年よりもっともっとスバラシイ実のあるものになるものと期待してやみません。

終わりに望み、運営面にたずさわった方々の献身的な、ご協力ぶり、特に大勢の人達の食事の用意など只々頭の下る思いで一杯です。

第17期班訓を終えて

地区野営行事委員長 竹村徳一

テントを打つ滴の音で目覚めた。時計は2時40分を指している。テントの外へ出ても、いつもの年のようにひどい寒さはない。濡れてはいけない物をフライシートの下へ入れ、さあ、もうひと眠りと寝袋へもぐり込む。

雨の開所式となる。毎年の事ながら、この時のスカウトは不安気な表情をしている。それが今年は初日から雨であるから、なおさらだ。運営本部もいよいよ忙しくなる。食料品の受取りと各隊への配給、リーダーの食事の調理、盛り付け、あと片付けと休むヒマもない。僅かの時間を見付けては薪木ひろいに出かける。4日間のこの繰返しであるが、毎日毎日が楽しく時間の経つのを忘れてしまう。疲れたなと思う時があっても食事を終えた人達が、ごちそうさまと云うひと言が運営本部で働く人達をどんなに元気付けてくれることか。

今年の運営本部は設備が最高であった。沢の上からホースで水を引き超簡易水道を造った。これが最終日に僅か6名という人員にもかかわらず、水汲みの手間を省き140名の食事を作る事が出来た一つの原因ではなかったかと思っている。

スカウトの指導に当られたリーダーの方々、運営本部に奉仕をされた健康安全委員の先生方、そして野営行事委員の皆様に厚くお礼申し上げます。

班長になつたら

けもの隊コウモリ班 松尾 慈久

班長になつたら、僕はまず班員に信らいされたいと思う。これは班長の一番大切なことだからだ。それには班長は班員よりすぐれているということをしめさなければいけない。

僕はまだ初級で特修章も少ない、だからあまりこういう面でよくはないのでこれからがんばってとりたいと思う。それから、キャンプの時はよく動く班長になりたい、班長は班員よりえらいからといって命令しているだけではいけない、自ら動き、班員を指導しなければいけない、これも大切だと思う、これは班長訓練野営にきて一番感じた。

これから班長訓練野営にきて覚えたことや体験したことをフルに活用し、よりよい班長になり、またよりよい班をつくっていきたいと思う。



班長になつたら

けもの隊キツネ班 鈴木 博昭

ぼくが、もし班長になつたら、今までとはちがうと自覺し行動しなければいけないと思う。

どこがちがうかというと、今までは、班長の後についていけばいいと思った。しかし、これからは、自分が班長になるのでみんなをリードしていかなければいけない。そのためには、安全に正確に、班員に教え、自分も班員から好かれる班長にならなければいけないと思った。

班員が、結さくが分からぬといえど、結さくを教えてやり、危けんなガケがあれば、自分から見本を見せて、安全に登ってこさせる。ともかく、自分が班長になつたら、班員に命令せず、まず自分が見本を見せて、班員にやらせるという方針をとりたい。

班長になつたら

けもの隊うし班 津田 昌宏

ぼくが班長になつたら班長訓練野営で学んだように日本一の班長になるように努力します。

ぼくが始めてボーイスカウトに入ったとき、りっぱな班長がいてとても感心しました。その班長は、班員のめんどうをちゃんと見て、連らくなどもちゃんとして、とてもまじめな班長でした。

さて班長になつたら日本一の班長になることと、もう一つは、始めてボーイスカウトに入ったときの班長のようになりたいと思います。ぼくは、班員に信頼されるようにすることと班員に分からぬことが教えられるようなりっぱな班長になりたいと思います。



班長になつたら

けもの隊キツネ班 山内 浩

ぼくが班長になつたら、まず班員に親しまれるよう自分もいっしょになっていろいろなことをやって、わからないところをどんどん自分の知っている範囲で教えてあげようと思う。そのほかに班長としての自覺をもち班員のもはんとなるように努力し、いろいろなものも工夫してやらせるようにしていきたい。

今度は、今までとちがって自分の性格のことだけど、ぼくはユーモアが少ないので班員がしらけておもしろくななくてはいけないので、とにかく明るくふるまつていこうと思う。

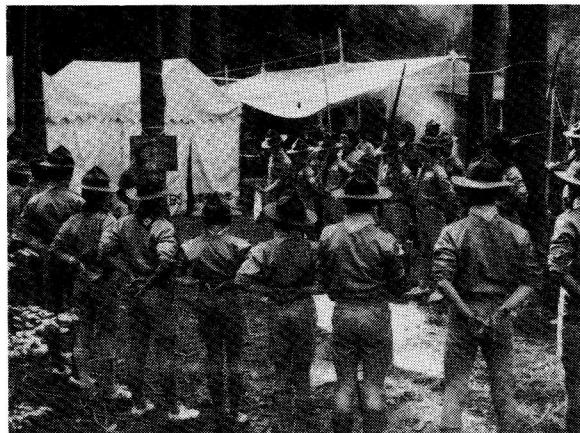
以上がぼくが班長になってやりたいことだが、いくつ守れるかわからないがとにかくおもしろく班員にすかれる班長になりたいと思う。

浜松地区第17期班長訓練野営

川隊々長 神谷 恭二

雨に祝福された浜松地区第17期班長訓練野営と云える様な事前学習の初日も渋川川宇連キャンプ場に入山した日の大雨もそうでしたが、特に入山時の雨はスカウト訓練には本当によい体験になったと思われます。スカウト・リーダーと共にこれ程までに自然な訓練はないと思われました。雨の中の設営夜間・明け方の厳しい冷え込みにと大自然の道場で自然の恵みを充分に身に凍みて感じ、文化の尊さを深く知ったことと思います。スカウト運動が、他の団体と比べて如何に勝っているかと云う事を知るには、スカウト活動の流れについて知る必要があると思います。スカウト活動は一貫した流れのプログラム上に乗り常に野外を教室に活動を実践している事です。

よいスカウト活動はよい班長を育てる事にあります。此の活動の流れは班長会議・班会議・班集会・隊集会の活動の流れを守る事にあると思います。事前学習では曳馬公民館の机上で学び、川宇連野営場では実践活動を通じて実施する。一つの事柄を異なる場所で反復しての学習は眞のスカウト活動の理解に大変役立った事を実感として感じた班長訓練野営であったと思います。



各セクションのリーダーの方々が、例えば「地図とコンパス」の様に一度に多勢に理解させようにも仲々個人差が有り全員完全マスターは確認出来ませんが、各班の班長を個々に手足を取り作図させて、コンパスの使い方を理解させる班長会議・各班長は指導を受け納得した事を自分の班に持ち帰って班員に教える事により自分の理解を深めると共に各PAが遠くから見守り間違いを正し乍ら班長の不足を補

なう班集会・隊集会では各班で勉強した成果を競うと云う素晴らしい出来栄えであったと思います。

此の様に各リーダーがスカウト教育に専念出来た事は浜松地区の教育本部・運営本部の皆様方の御協力に依り出来た事です。真に有り難う御座りました。



第17期班長訓練野営

鳥隊隊長 馬場俊郎

16期、17期と隊長として参加して色々と勉強になりました。17期は3泊4日で行なわれましたが、今回は隊付・上班をおいた事が、今までと違う所でした。毎回野営には一日は雨が降るのですが、今年は第1日目が雨でした。その為か、設営が大分遅れましたが、よく夕食が出来たと感心しました。4日間スカウト達と一緒に生活して思った事が一つ有ります。それは毎回野営技術が底下して行くのが目に見えて来て居ます。最初に設営してから4日間に進歩があまりなく、やる気があるのか、ないのかさっぱりわかりません。このままではボーイ隊の活動がこの先どうなるのか心配です。これから、班長として班員の指導が出来るのかと思うスカウトが、半分は居ます。我々リーダーは、根本的に考えて指導をして行かなれば、今後ボーイ隊の活動は底下して行くだけだと、17期班長訓練野営を通して一番強く感じました。これから、先班長訓練野営の方法、班長の教育をみんなで考えて行かなければ底下の一途を辿るだけだと思います。スカウト活動を向上させるのには我々リーダーも進んで色々な研修を受け、技術を向上させて、班長教育に自信をもって当たるべきだと思います。最後に、各リーダー、隊付、上班、の皆さんのお協力で、第17期班長訓練野営を無事出来た事に心から感謝します。

第17期 浜松地区班長訓練野営 修了者名簿

とり隊

○はやぶさ班

浜松1 (2級) 野村 俊和 浜松15 (2級) 橋本 好史
 浜松6 (2級) 高木 一弘 浜松21 (2級) 小野 豊
 浜松14 (2級) 本多 省三 浜松14 (2級) 今原 裕介

○コンドル班

浜松1 (2級) 渡辺 泰隆 浜松15 (2級) 富田 哲史
 浜松6 (初級) 岡田 光広 浜松15 (2級) 河村 明百
 浜松14 (2級) 佐々木 治 浜松21 (2級) 深谷 純司

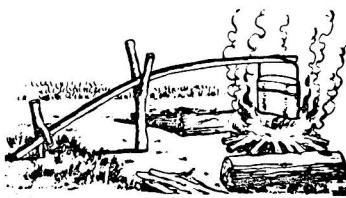
○ツバメ班

浜松6 (初級) 鈴木 孝幸 浜松15 (初級) 栗原 純
 浜松14 (2級) 奥沢 公一 浜松22 (2級) 倉友 五郎
 浜松15 (2級) 杉田 康生 浜松21 (2級) 藤原 政照

○ハト班

浜松1 (2級) 横田 憲 浜松15 (2級) 内山 尚行
 浜松1 (2級) 神宮健太郎 浜松15 (初級) 杉山 哲康
 浜松14 (2級) 山本 邦弘 浜松21 (2級) 金原 永治

川隊



○うなぎ班

浜松4 (2級) 笠原 出 浜松24 (2級) 鳥井 友博
 浜松7 (初級) 重野 一幸 引佐2 (2級) 大石 知則
 浜松11 (初級) 小楠 喜昭 細江1 (2級) 豊田 晶
 浜松19 (2級) 辻村 繩基

○ハヤ班

浜松4 (初級) 渡瀬 浩康 浜松24 (2級) 榎田 隆義
 浜松7 (初級) 上嶋 敏弘 引佐2 (2級) 伊藤 安良
 浜松11 (初級) 鵜飼 一博 細江1 (2級) 山則 益孝
 浜松19 (2級) 辻村 栄司

○やまびこ班

浜松7 (初級) 長谷 征和 浜松24 (2級) 木下 径彦
 浜松11 (初級) 土屋 慎司 引佐2 (2級) 佐藤 聰
 浜松12 (初級) 阿部 裕康 細江1 (2級) 田力 潤
 浜松19 (2級) 斎藤 和彦

○かわうそ班

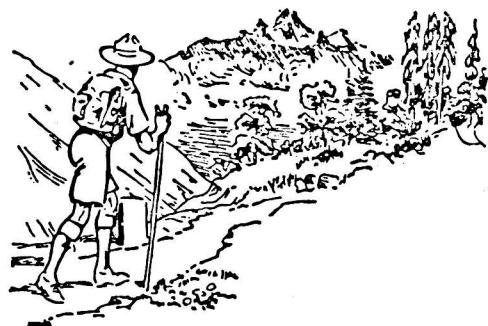
浜松7 (初級) 松波 洋一 浜松19 (2級) 永野 大輔
 浜松11 (初級) 青葉 陽亮 引佐2 (2級) 大矢 剛
 浜松12 (初級) 水野 崇 細江1 (2級) 加茂 貢

○サケ班

浜松4 (2級) 宮崎 正成 浜松12 (2級) 萩野 慶太
 浜松7 (初級) 江口 元 浜松24 (2級) 原田 勝弘
 浜松11 (初級) 倉橋 健 浜松25 (2級) 松尾 圭介

○ザリガニ班

浜松4 (2級) 松田 誠 浜松12 (初級) 高山 大輔
 浜松7 (初級) 菊池 将文 浜松24 (2級) 平川 育穂
 浜松11 (初級) 鶴田 育久 浜松25 (2級) 芹田 吉位



けもの隊

○ウシ隊

浜松10 (2級) 鈴木 政二 浜松18 (2級) 吉田 宗広
 浜松16 (2級) 西田 泰則 浜松20 (2級) 山田 高宏
 浜松18 (初級) 入山 修二 可美1 (初級) 横井 伸拓

○モグラ隊

浜松10 (2級) 那須田拓二 浜松20 (2級) 紅林 茂男
 浜松16 (2級) 津田 昌宏 可美1 (初級) 長谷川達雄
 浜松18 (初級) 鈴木 慶太

○キツネ隊

浜松10 (2級) 鈴木平五郎 浜松20 (2級) 中村 元昭
 浜松16 (2級) 鈴木 博昭 浜松23 (2級) 山内 浩
 浜松18 (初級) 伊熊 俊介 可美1 (初級) 松本雄一郎

○コウモリ班

浜松10 (2級) 鈴木 孝幸 浜松20 (2級) 後藤 雅文
 浜松10 (2級) 中田 昌宏 浜松23 (2級) 村松 直樹
 浜松18 (初級) 松尾 慶久 可美1 (2級) 水野 明靖
 浜松18 (初級) 江川 要

○ブタ班

浜松10 (2級) 鈴木 勝彦 浜松18 (初級) 松下 彰
 浜松16 (2級) 佐野 淳 浜松20 (2級) 水野 哲志
 浜松18 (初級) 中村 達矢 浜松23 (2級) 松井 章之

南部ブロックB-P祭

昭和57年2月21日 中田島海浜公園にて

地区指導者養成委員長

浜松16団々委員長 新谷 豊

陽春といえば、卒業、入学のシーズンである。

今年も幼稚園、小、中学校と地元の諸学校より御招待を受けた。業の終わりとしての祝辞よりも、次のステップの為の激励の言葉にウエイトが掛ってくるのも小、中等教育の現在の位置づけからいって当然とは思うけれど特に目についた。

いろいろ拝聴したなかで子供達に「自らやる気を持て」との言葉が一番気にかかった。先年女子中学生を持つ父兄より相談を受けた事がある、担任の先生に不信を抱き、学校では勉強する気にならないが、皆んながいっているA塾へ通えば皆んなより必ず成績も上になるからA塾へやって欲しいとせがまれておるとの事、親もその子の性向がわかっているので、次々と変る子供の希望に、いくら勉強の事とは言へ子供の主張に安易に妥協してはいけないと気付いての相談であった。やる気が本物なのか、どうか、少數ではあると思うが、月謝の高い塾へ通えば、苦労せずに成績がよくなるものだ、とのあやまつた観念のはびこっている現状はいくら社会風潮の変化の中とは言え未恐ろしい気がした。

いまの子供達のやる気をどこでとらえているのでしょうか。スカウティングに共に携わる一員としてもよく考えたいと思う。

論語に「憤せざれば啓せず」とあります。憤激して道を求めてくる位いでなければ教へ導いてもしようがない。おこらないものには教えない」と。学問と義務教育との相違をこの辺でおさめるべきかも知れません。スカウティングの現状はどうでしょう。大人も含めて真に道を求めての集団でしょうか、カッコよさにつられてのお遊びでしょうか、我々のスカウティングは、理念に裏打ちされた社会教育活動です。我々は信念を強固に持って、艱難を切り開く勇気と努力を積み重ねる以外にスカウティングの未来はないと思います。互いに努力しましょう。

B-P祭に参加して 浜松第16団白川晴子 DM

開会式30分前。すでに各ブロックのカブ隊、ボーイ隊は集合し、隊長の指導のもとに小さなゲームなどでキビキビと体を動かし開会式にそなえていました。そんな姿を見て指導者の方々の御苦労をまのあたり

に見た思いがしました。

そして、いよいよ運動会です。棒引き、むかで競走、リレー、綱引と次々に日頃の鍛錬ぶりを發揮し、いつのまにか参加するものも応援するものも一生懸命になっていました。私も綱引にかりだされ手が真赤になってしまい、足がガタガタなるほど一生懸命やった後は勝敗にかかわらずとてもすがすがしい気持ちになりました。運動する機会はあっても自分から進んで参加する事がおっくうになりはじめた昨今。……何事にも積極的に取組む事や集団で協力しあう喜びを今さらながら痛感しました。

こうして多くの行事を通して人に尽す事や健康の大切さ等、さまざまな事を身をもって体験し、すくすく育っていく子供達を見て本当にたのもしい気がします。家庭では学ぶことのできない集団行動での規律の厳しさや学校とは違った友達とのふれあいのなかでベーデン・パウエルの教えが引継がれていくのでしょう。

B-P祭 浜松第16団カブ隊足立宗久

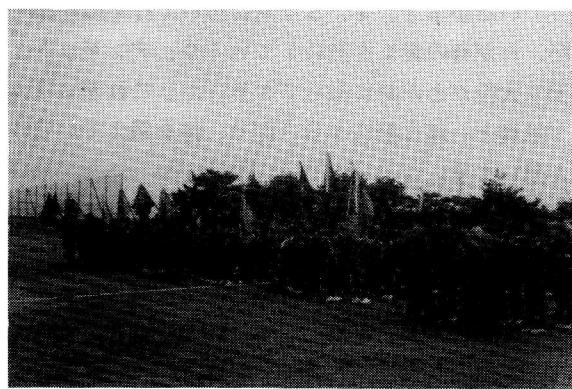
どんよりしたくもり空の下で、B-P祭はせい大に行なわれました。ベーデンパウエルはただボーイスカウトを作ったぼくはそのようにベーデンパウエルを考えていた。しかし、世界の総長、ベーデンパウエルは、ぼくたちスカウトにわすれてはならない人物だということを今、かたく知りました。もちろん今、前または後ろにいる友と会うことのできるのもベーデンパウエルのおかげです。「神はわれわれに不自由のない世界にしてくださいました。」ぼくは、このメッセージを聞き、まわりの木々を見ながらもつともだと思った。それどころか豊すぎるとも思った。なんだか、ベーデンパウエルはすぐ近くにいるような気がしてならなかった。

ミニ運動会では、結果は悪かったがぼくたちなりにがんばった。ぼう引きの時だった。ぼくと他の団の人と二人でぼうを持っていこうとしたときには敵のカブが二人とびついてきてひっぱりあいになった。そこへ、ちょっと太めのボーイの人が来て加勢してくれすぐ取りかえし「ほらもってけ」と言ってくれました。その時はなんともいえない喜びだった。ぼくもあの人みたいになろう、ぼくはそう思った。それとおうどんのおいしかったこと、今度は、ボーイ、ガンバロウ。

B-P祭に参加して

浜松第10団カブ隊 石津 智章

2月22日にB-P祭が中田島公園がありました。今年のB-P祭はミニ運動会でした。その日は雲り空で、ちょっと心配でした。ぼくの出た種目は、つな引き、ぼう取りゲーム、10人11きゃく、リレーでした。その中で一番心に残ったことは、ぼう取りゲームでした。鉄ぼうの合図でてきと、ぼく達のまん中におかれたぼうを、自分のじん地へ入れるのでした。ぼくもって、自分のじん地に入れようとしたぼうは、どれもてきと引っぱり合いでした。そうすると自分のじん地の人もてきのじん地の人もあつまってきます。でもそのぼうしは、どれもぼくたちが取り上げて自分のじん地へ入れてしまいました。そして、どの勝負もぼく達が勝ちました。リレーは、ぼくの父も参加して一位になりました。そして総合優勝が決まった時は、みんな飛び上がって喜びました。それはみんながんばったからだと思います。



B-P祭

浜松第10団カブ隊 伊藤 貴明

ぼくは、B-P祭で中田島へ行きました。その時は、B-P祭がなんのかわかりませんでした。開会式の時やっとボーイスカウトをつくったベーデン・パウエルが生まれた日などと分かりました。その後運動会をやりました。

つなひきでは、ゆうしょうしました。ゆうしようしたときはとてもうれしかったです。とてもたのしかったです。

楽しかったB-P祭

浜松20団カブ隊 斎藤 晴義

中田島公園で、B-P祭が行なわれました。公園に

つくと曇っていて、最後までもつかなあと、心配しました。

はじめに、真ん中に木をおいて、その木をとりに行くゲームをやりました。ぼくは南の方の組で、二回とも南の方がまけました。

そのあと、いろいろゲームをやり、さいごにぼくの出るリレーをやりました。一番はじめに増井君が走り、ぼくもいっしうけんめい走りました。はじめのうちははやかったけれど、デンマザーにバトンが回ってからだんだんおそくなりはじめ、最後にはぬかれてしまいました。

ぼくにとってカブスカウト最後のB-P祭だったので、リレーで一いをとりたかった。

B-P祭に参加して

浜松23団ボーイ隊たか班 山内 浩

南地区のB-P祭は、運動会をやりました。C-S、B-S、リーダー、团委員等全員参加でやりました。私たち23団は一番はとれなかったが、2番が多く総合2位でした、棒引き、綱引き、10人11脚、カブから团委員までのリレー等、団対抗の得点競技で大変楽しくやりました。

また、他の団のスカウトと友だちになって非常に良いことだと思いました。最後にウドンをたべました。お腹がへっていたので大変うまかった。また南地区の全員が集まって何か計画すると楽しいと思います。

南部ブロックB-P祭

可美1団C-S副長 鈴木 啓江

2月21日、南部ブロック 400人余りが中田島海浜公園に一同会し、B-P祭が盛大に開催されました。午前10時開会式。国旗掲揚、君が代、世界の総長の齊唱。主催者代表、浜松16団の市川重雄育成会長の挨拶がありました。その中で、今一度B-P卿の生立ちを話され、その遺徳を再認識しました。

続いてワイドゲームに入り、石津C-S隊長より注意があり、棒引き、10人11脚、百足競走と進み、力を出し切っての綱引きや、注目のリレーも行なわれ、楽しい一時を過しました。新谷団委員長のお話、表彰式も済み、和気あいあいのうちに幕を閉じました。この後、心尽しのうどんをいただき、スカウト達も満足気でした。関係者の方々の御奉仕に感謝しつつ、会場を後にしました。

* 浜松第10団 * スカウトのひろば *

班長になつたら

ボーイ隊 鈴木政二

ぼくが班長になつたらまず、全員班集会や隊集会にかならず出席させるようにしたいです。そして、ロープ結びや手ばたなど出来なければいけないことなどは出来るようにさせたいです。それでぼくが自信をもって、てほんを見せて、全員にしんらいされるようになりたいです。

そのほかには班員の1人1人にやくわりをきめてスムーズにいろいろな会やキャンプなどを出来るよう努力したいと思っています。

このようなことに注意して、これからは頑張っていきたいです。

月の輪訓練をおえて

カブ隊 中村嘉晃

ロープ結び・テントの張り方・12のおきて・3つのちかい・体を使っての距離の計り方・火のつけ方など1つ1つ隊長より教えていただきました。

その中で一番苦しかったのは、12のおきてを暗記することです。毎日1つ1つ覚えれば、すぐ覚えるのですが、その日のうちに12覚えようとしたのでたいへんでした。隊長の前に行くと少しあがってしまってうまく言えませんでした。その他は楽しくできました。

月の輪訓練で、とくに学んだことは、カブスカウトとは違いボーイスカウトは何倍もきびしいことです。まずあまえず自分の心に勝つ、ということを常に心の中におき、これからは月の輪訓練で学んだことを充分にいかしてがんばりたいと思います。

月 の 輪

カブ隊 鈴木弘二

最後の月の輪の日のことを話します。
その日は晴れでした。10時までに7~8人きました。まだ12のおきてをゆっていない人は隊長に12のおきてをゆいました。それがおわったので、また、はまにいくことになり、みんなで、はままで自転車で行きました。隊長はずるいのでオートバイで行きました。とちゅう、さわき君がくるのがおそいのでとまつりました。はまについてから草をとろうとし

ました。のこぎりをもってこなったので、手でもしりとりました。木は、木をきったのがおいてあるところにとりにいきました。なかなかとれないので隊長が「3~4人ついでこい」といったので、むねたか君と隊長のあとをついていきました。そして自転車がおいてあるところにきて「まつのはをとってもってこい」といい、むねたか君ととなりました。火がついたのでいもをいれて、やけるまであそんでいました。やけたので、1人1こづつたべました。たべてから、すずさんてっこうにかえるとき隊長にジュースをかってすずさんてっこうにいきました。へいかいしきをやってからかえりました。

カブ隊と行動を共にして

D P 河合 勇

カブ隊と3度ばかりですが行動を共にしましたが40の声を聞く年になった今、子ども、子ども、と思っていた小学3、4、5年生に付いて行くのが精一杯、わが身の衰えを感じている今、デンダットと云う大役がわが身に回ってきました。これからはカブ隊員と一緒に野山を歩き回り、体を鍛えていこうと思います。

またカブ隊員は良く、いろいろと工夫して劇、工作等をして発表をしているのに、デンマザー(?)付添いの親がしゃべっていては、カブ隊員は声が小さいと怒る隊長、これではカブ隊員はやる気をなくすのではないかと思います。デンマザー、付添いの親は、隊員が発表をしている時ぐらい、しづかにしていてはいかがでしょうか。

班長になつたら

ボーイ隊 鈴木勝彦

まず班長になつたら、班員から尊敬され、信頼を得られる班長になりたい。そのためには、常に全力投球で、精一杯やりたいと思う。この理想の班長に少しでも近づきたい。その手段としては、自分が班員に手本をしめし、指導し、てっていさせる。そして班集会を定期的に開きたいと思う。最終的には自分を追いこすほどのスカウトにしたい。班長という役務が自分の所に与えられることは、名よなことであるが、それから向う一年間必死で努力し、より良い班作りにつとめることを約束します。

さあ、1年間がんばるぞー。

* 浜松第16団 * スカウトのひろば *

班長訓練野営 ボーイ隊 佐野 淳

班訓にいく前に、あにきとか、おとうさんに雨がふるからきおつけろといわれていた。けど雨がふったのは入所式の時だけであとの三日はずつはれていて、2日目はあついぐらいだった。あめがふらなかつたせいか、もつてきたきがえとかタオルはあまりつかわなくてちょっとじゃまになった。

せつえいの時はテントをはつた場所がわるく大きな木がまんなかにはえていたのでじゃまだった。1日目の夕食はすきやきとごはんで、すきやきはとりあいになって自分のたべる分がすくなくなった。

2日目、ぼくたちブタ班は早くおきて朝食のじゅんびをした。「今日はこうしゅうばっかでいやになる」とみんないっていた。昼食はステーキとみそしるごはんだった。キャベツもあった。朝食のたまごがのこっているので6こぜんぶつかって目玉やきをつくった。

ステーキは分あつくてあまりやけなかった。たべてみるとなまだったけどたべた。

3日目のハイキングは東海自然歩道入口というところをのぼっていったがすごくながくてつかれた。かんいそくりよう器のところをやって道がわからなくなつたけどちゃんとやってかえってきた営火のとき歌をうたっておお声でうたつたらのどがいたくなつた。

4日目食たくももうできて、すわってたべれるようになつた。ごはんはあまりこげなくておいしかつた。てつえいのとき、また、テント生活の班訓のあいだ、あまり水をのまなかつた。かえってから水をよくのんだ。あまりべんじょにいつてなかつたのではらがいたくなつた。

富士登山 カブ隊5班 横井孝康

7月28日に富士登山をした。しかのときと、くまのときとで2回目だ。しかの時は6合目までしか登らなかつたので今年こそ頂上まで登ろうと思っていた。きん張していたのでろくに言葉も出なかつた。しかもカブ最後の富士登山だ。きん張していたのがなおさらひどくなり、ドキン、ドキンと心ぞうの音が高鳴つていた。あたたかい服装にして外にでると、とても気持のさわやかな空気が流れついた。登り始めた。約1年ぶりの富士の土を一歩一歩ふみしめて登つていつた。宝永山もはっきり見えてきた。大きさは富士山より小さいが、たくましい姿を見せて

いた。新6合目の万年雪でジュースを冷してあつた。その万年雪にさわってみたら、とても冷めたかった。新6合目をこえて少し登つたところで昼食をとつた。食べたらとてもおいしかつた。また登り始めた。すれちがう人に、「こんなちは」と話しかけたりしていつた。そしてだんだん道は細くなつてきた。しかも岩石はごつごつとし始めた。よくこんなによう岩がふき出たと思うほど多い。その辺りから頭がいたくなり、目の前が暗くなつてきた。酸素がうすくなつてきたからかな。息もしにくくなつてきた。「あつ」高山病にかかってしまったのかな。しかし、頂上まで登ろうという願いをめざしてがんばつた。

少し登つてはいたみ、少し登つてはいたみという調子だ。まるでかぜをこじらせてゐるみたいだ。やつと8合目まで登つたがますますいたくなつたので記念写真をとつて下山しました。自分の目標がたつせい出来なくて残念だ。来年はボーイだ。今度こそは頂上まで登りたい。浅間神社で自分の富士登山の苦しさを話したい。「目前の頂上を今度こそは登つてみせてやるぞ」



C・S時代のこと ボーイ隊 堀内秀行

ぼくは、カブスカウトに入る前は、勇気がなくて、おくびようでした。

だけどカブスカウトで気もだめしをしたりしているうちに、ぼくは、もう勇気が出てきました。それにぼくは、ロープのむすび方は、ほんの数種類のむすび方しかりませんでした。だけど、カブに入つてからは、もう何十種類もおぼえました。

ぼくは、本当におしえていただいてよかつたと思うことは、集団行動のきまりのことなのです。

今では、本当にカブスカウトに入つてよかつたと思います。これからもカブスカウトで学んだことをわすれずに、これまでにならつたことをいかして、りっぱな行動をとろうと思います。

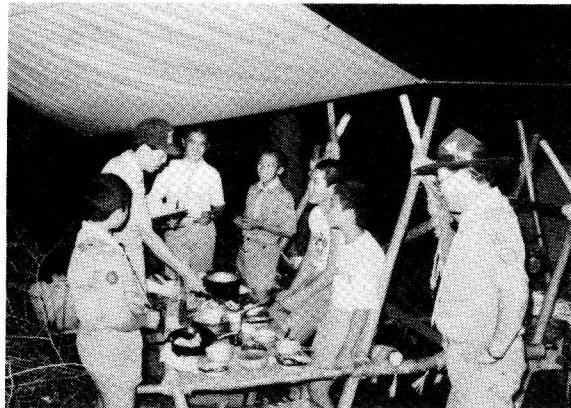
* 浜松第18団 * スカウトのひろば *

オリエンテーリングに行って

カブ隊 伊熊 修

公民館に行き、お話しを聞いてから出発した。ポイントをさがしながら高天神に行く。地図をもとにコンパスを使って。初めてなのでコンパスの使い方がむずかしかった。行くと中で、鳥の羽根を拾ったり、木の名前も調べて行った。ぼくの知らない名前の木がたくさんあった。300だんのかいだんをあがって高天神城本丸のあとに着いた。とてもつかれたので、お昼のおにぎりがいつもよりおいしかった。

隊集会をやってから、いろいろなゲームをやり楽しくすごした。石ころのある所にも行った。中に手を入れたらとても冷たい風がきた。頂上から見た景色はとてもきれいだった。



佐久隊野営の想い出

ボーイ隊カモシカ班 島津秀行

8月22、23、24日と2泊3日にわたってボーイスカウトになり初めての野営を経験しました。

1日目の22日はテント設営でした。僕たちはまだ未経験なので水くみとか、そっこうを堀る仕事をしました。水くみは水が冷たく気持ちがよかったです。しかし夜に水くみに行くのは暗くて足場があまりよく分らず、水の中は冷たく全身にとりはだがたつくらいました。けれど真夜中の水くみもいい体験をしたなと思った。

2日目は山道など10kmぐらいのハイキングがあつたが、この日のハイキングは今までにないよさを味わえた。半分の地点で休けいがあり、昼ご飯を食べたり水泳をしたりしました。その後はほとんどアスファルトの道路だったのでそんなにもつかれませ

んでした。

3日目の24日はテントをたたむことでした。テントをたたんだらキャンプ場をそうじしてゴミ一つないようになるまでしたら山にお札を言って2泊3日の野営を終えました。

三立せいいかへ見学に行ったこと

カブ隊4組 伊熊健二

11月28日に三立せいいかの工場を見学に行きました。工場の中は、おかしのいいにおいがただよっていました。1分間に何こも作られているおかしを見ていて、今すぐ食べたいくらいでした。

発こうするきかいや、やくきかいや、ほうそうするきかいなど、いろいろなきかいを使ってどんどんおかしを作っているので、とてもすごいです。だけど、それを自分たちで考え、自分たちで作った人間の方が、もっともっと何十ぱいもすごいと思いました。一番びっくりしたところはパイをはこに入れるところで、きかいの上を見ていても、なかなかパイをはこに入れないで、おじさんにならう。

「下からパイをはこの中に入れているよ。」と言ったので、びっくりしたところです。

第17期班長訓練野営に参加して

ボーイ隊コンドル班 入山修二

8月21日の第1日目は前日からの雨がまだ残っていて設営に苦心した。僕たちの班はウシ班であわてずに着実に行動する事がモットーだが「あわてずにあわてずに」だけになってしまう事が多い。

第2日目になって鼻炎がひどくなってしまった。鼻水がとめどもなくどんどん流れるし、目はかすんで来るし動きがぶくくなってしまった。夜の小営火は班長に申し出てテントの中で上をむいて休んでしまった。

第3日目のハイキングは最悪だった。鼻水といき苦しさで気が遠くなる様だった。タオルでふく面の様にして鼻や口をおさえよく洗って使った。この間他の班員たちがガンバッテくれたのでサイトもだんだんよくなつてきました。

第4日目、とうとう撤営の時が来た。そして僕たちウシ班は優秀班として選ばれた。うれしかった。だが閉所式の時、気がゆるんだのか、とうとうすわりこんでしまった。今思うと、この苦しい体験もこれからスカウト活動に非常によかつたなと思います。

* 浜松第20団 * スカウトのひろば *

「三幸の園」いもんについて

カブ隊 植田明佳

ぼくは、12月に三幸の園という老人ホームに奉仕作業を行った。前にもあったが、その時は用事があって行けなかった。ぼくらは、もうすぐ三幸の園でクリスマス会があるからそうじに行ったのだ。

三幸の園は、とても広くて、中には老人の人たちがテレビを見ていたり、ベッドでねている人がいたりしました。ぼくは、家族といっしょにくらせないのでかわいそうだなと思った。

ぼくたちは部屋のまどふきをやった。よく見るとだいたいの人たちがテレビをもっていた。隊長に「静かにやりなさい」といわれましたが、なかなか静かに出来なかった。

まどを、ガラスマイペットという薬をぞうきんにぬってふいた。もう、みんな老人の人たちが多いので、まどは、とてもきたなかった。ぼくは、いっしょけんめいにふいた。そのためまどは、とてもきれいになった。それで、ぞうきんを見ると真っ黒になっていた。

クリスマス会をやるので、ガラスには何か絵がはってあった。ガラスマイペットというので、あわの物があって、それを使ってガラスにらく書きをして遊んでいたら、隊長におこられてしまった。

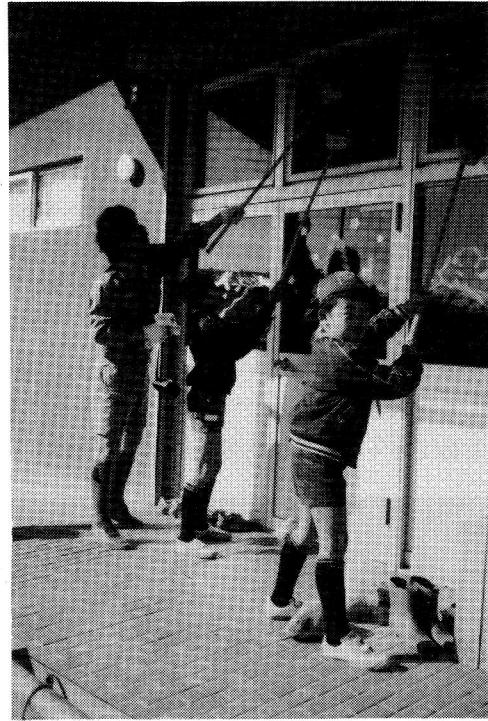
ぼくは、三幸の園に行って、ほんとうによかったと思う。それは、老人の人たちが、どんな生活をしているか、少しだったがわかったからであった。

これからも、三幸の園だけでなく、ほかの老人ホームに行ってみたいと思いました。

緑の羽根

ボーイ隊コブラ班 猪塚建児

3月28日、カブ隊といっしょにジャスコで緑の羽根を売りました。「緑の羽根お願いします。」と、はりきって大声を出したら途中で声がかれてしまいました。でも、思ったよりだいぶ売れて、とてもうれしく思いました。ぼくがカブ隊の時は、駅の近くとか、かもえかんのなどで売りましたが、その時より今度の方が多く売れました。羽根は1本20円以上でしたが、100円を出した人もいました。買ってくれた人は、老人が多かったように思いました。この羽根のお金は、日本の国に緑をふやすのに役立っている



と聞きました。すると、ぼくたちが羽根を売るのはそのための手助けになっているのだなと思うとうれしくなりました。

大声を出して声がかれたり、歩きまわってつかれたりしましたが、来年はもっとたくさん売れればいいなあと思います。

楽しいシニア

シニア隊 坂元 隆文

この1年間、シニアスカウトとして活動してきました。伊良湖岬への夜間サイクリングやキャンプなど、自分たちで計画して実行してきました。ボーイスカウト活動より一歩進んだ、そして大変楽しい活動、これがシニアの活動だと思います。

そんなぼくたちシニア隊も、現在は人数が大変少ないのです。だから三年生までが活動に加わってくれているのです。現在ボーイの人はぜひシニアへ入って、よい体験をしてもらいたいと思うのです。

今年の夏の第八回日本ジャンボリーに、ぼくは奉仕隊として参加することになりました。シニアスカウトとしての責任を果たし、すばらしいものにしたいと思います。

とにかくこれからもより多く活動して、充実したシニアであるよう努力します。

* 浜松第23団 * スカウトのひろば *

はじめてのキャンプ

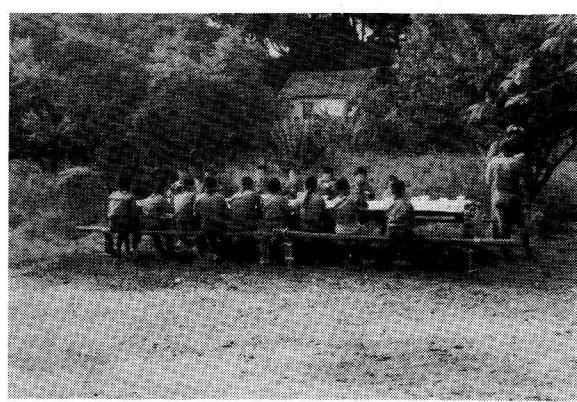
ボーイ隊 高部 将司

今日、はじめてボーイスカウトのキャンプをやりました。テントをはる時うら表をまちがえた。

夕食がうまかった。肉が大きかったのでうれしかった。食器をあらう時、話ばかりしていてすばやくできなかつた。もっといっしょくけんめいやらなければいけないと思った。

水くみをやつた。重くてたいへんだった。水を大切にしなければと思った。

はじめてキャンプのことがわかつた。



はじめてのキャンプ

ボーイ隊 大村 英生

今日、はじめてボーイのキャンプをやつた。ふりかえってみると、カブとちがつて、何んでも自分でやらなければならぬのでたいへんだった。

とくにテントはりだ。しっぱいばかりしていやになつた時もあったが、がんばつて最後までやつた。

それから夕食をたべたあととかたつけがたいへんだった。お母さんの気持もよくわかつた。

一番たいへんだったのは、夜の水くみだ。遠くの遊園地から竹ざおにポリタンクをしばつてはこんだ。手がしごれて途中何回も休んだ。水くみをやってみて水の大切さを知つた。

これからもいっしょくけんめいがんばつていきた。

はじめてのキャンプ

ボーイ隊 高部 現司

このキャンプで一番しつたことは水の大切さでした。

た。食器あらいの時に、水をつかいすぎて水くみをやらされました。遠くから水をはこんで重かったです。

それから隊長に水の話をしてもらつた。

それから今日はじめてボーイのテントをたてたらいがいとむずかしかつた。ぼくは、がんばつてやつとおぼえました。

はじめてのキャンプ

ボーイ隊 山田 真司

テントをたてるのは、はじめてだったので、どのようにたてるのかわからなかつた。考えていたよりもこまかくむずかしかつた。

水くみをやらされた、いっぱい入れたのでとても重かつた。先ぱいに少しもらつてはこんだ、それから隊長に水の大切さを話してもらつた。

これからいろいろやってがんばつてやりたい。

はじめてのキャンプ

ボーイ隊 山内 義弘

今日はじめてテントを立てました。隊長におしわりながらやつたが、うまく立たなかつた。何回もやりなおしました。

やつとできて中に入った時はうれしかつた。

食器あらいもやつた。その時に水のつかいかたをおしわつた。水くみもやつた。カブとちがつて、何んでも自分でやるのでいろいろためになつたなと思います。

これからもがんばつてボーイをやつていきたいと思います。

* 可美第1団 * スカウトのひろば *

班長になつたら

ボーイ隊 長谷川達雄

まず、ぼくが班長になつたら班員をまとめ班員から、しんらいされるような班長になりたいと思う。そして、班員全員で協力して、良い班をつくっていきたいと思う。そして、まとまらなかつたら班員全員でなぜまとまらないか考えたりして、まとまるように力をあわせていきたいと思う。そして1ヶ月に1、2回ぐらいに班集会をやつたりしていきたいと思う。そして、班集会できましたことを隊長にだしたりして、まとまりがある班にしたいと思っている。そして、班員の手本となり班員を教育したりして、まとまりのある班にするよう頑張って行きたいと思います。



カブスカウトでたのしかったこと

カブ隊 島 潤一郎

カブスカウトでたのしかったことは、いっぱいあります。なかでも横川へキャンプをしに行ったことがたのしかったです。バスにのっていたときは、たいくつでしたが、横川についてからがたのしみでした。ついてから川の水でかおをあらっていいのかな?と思っていましたが、だんだんのしくなつてわすれてしましました。はんごうで米をたいてカレーをたべたのも、たのしかったです。それとキャンプファイヤーもたのしかったです。川で水あそびをしたり、ゲームをやつたり、そうじもやりました。川の水がつめたかったけど、たのしかったです。

心にのこつたこと

カブ隊 伊藤 達彦

ぼくはこの1年間でいちばん楽しかったのは、スキーです。バスにのつてしゅっぱつ。心はうきうき、

どきどきしていました。ついでからスキーの道具をかりましたが、1時間ぐらいもまたされました。でもそんなことは気にせず、じゅんび運動をしました。

スキーのこうちにやり方をおしえてもらいました。生まれてはじめてすべてみたら、はやくもドスンと、ころんでしまいました。その時は、やるぞという気もちより、やめたいなという気もちの方が多かったです。でも、だんだんやりなれてくると、もう一番したまでいけるようになりました。雪もふってきてさいこうでした。おわりになったころは、とまりがけでやりたいなと思いました。そして、ぼくには、とんださいなんがありました。それは長ぐつがないのです。こまつしました。しかたがないので、予備のくつをはいて帰りました。

そして、おみやげを買ひ、またバスで楽しくかえりました。とてもたのしい1日でした。



竜頭山にアタック

カブ隊くま班 所 浩則

山香公民館の前で、出発前の記念撮影をして、カブ隊を先頭に歩き始めた。アスファルトの道を3、40分ぐらい歩いたら、あまりキャラバンシューズに慣れていなかったので足がいたくなつた。でも、山道に入つて調子が良くなつた。そして、中間ぐらいでボーイ隊と、カブ隊と分かれた。それからますます調子が上がり、ろく郎君とまき野君と三人でかけ足で登つた。頂上へつく少し前に、こおりがはつていて、長い、きゅうな道があつた。その道を登る前に一度上を見上げてみた。どこまでも続いていて、限りない道のように思えたが、むちゅうになって、はいつくばるようにして、アイゼンも付けずに登つた。3人で、きょうそうするように登り、3人いっしょに頂上へついた。すつきりして、とてもうれしかった。楽しい登山でした。



友情と躍進の 第8回日本ジャンボリー

南部小地区コミッショナー 太田 進

4年間を周期として第8回日本ジャンボリー(8 NJ)が開催されます。

8 NJは新しい1980年代にふさわしいスカウト主体の祭典として、スカウトの自発活動の促進をはかり、広くスカウト運動を躍進させる契機とするものである。参加者は「ちかいとおきて」の実践をこのジャンボリーにおいても実現しなければならない。このため、とくに次の事項に留意する。

(1) ジャンボリーは単なる祭典ではなく、平素の訓練の成果を諸活動を通じて發揮する。

(2) 資源有限の時代の中で開催されるこのジャンボリーは、80年代に生きるスカウトが創意工夫をこらし、自主的に省エネルギー、省資源の生活態度を身につける機会とする。

激動する世界の様相にかかわらず、スカウトが互いに理解しあい、睦みあうことによってスカウティングの理想を実現することを願い「友情と躍進」のテーマを掲げ、東北の名峰蔵王山の南麓一帯の草原地帯、宮城県白石(しろいし)市で8 NJは57年8月2日夕刻の開会式に始まり、8月6日の夜間に実施される閉会式をもって終了する。参加スカウト及び指導者は、長期の野営生活に耐える充分な健康状態と野営技能を有することが必要である。

8 NJの活動は、全体行事と自主参加行事(選択プログラム)に分かれ、全体行事は開会式、大集会閉会式の三行事、自主参加行事は14種目、スカウトの意欲ある自主的活動を奨励するため8 NJパイオニア賞がある。

以上は実施要領より抜粋したものであります。詳細については、まだ未確定要素が多いなかでの参加スカウトの選考にあたっては、各団が責任をもつて選抜する。

8 NJの参加人員の総数は、3万名であり、うち浜松地区よりの参加スカウトは150名余であります。

8 NJは、サブキャンプ(SC)システムを通じて運営されます。浜松地区は7 SCに配置されております。

参加スカウトの輸送計画は7月31日(土)、18時30分浜松発、東北本線岩沼駅に8月1日(日)着、ジャンボリー会場には8時30分に、帰りは8月7日(土)仙台駅16時発、8月8日(日)5時30分浜松着の予定がされていますが、未だ確定されていないので確定次第各参加隊長よりの連絡をまち、浜松地区スカウトは規律ある行動をとり平素の力を發揮されることを期待する。

地区のうごき

1月13日 班長訓練野営運営委員会(法林寺)

- 1月13日 西部小地区リーダー会
- 1月14日 訓練チーム会議(法林寺)
- 1月18日 健康安全委員会(法林寺)
- 1月19日 地区新年会(牛山会館)
- 1月20日 南部小地区リーダー会
- 1月21日 C Sリーダー会(法林寺)
- 1月22日 S S隊長会(法林寺)
- 1月24日 班長訓練野営リーダー研修会(曳馬公民館)
- 1月26日 8 NJ編成隊長会議(法林寺)
- 1月27日 組織拡張委員会(法林寺)
- 1月28日 地区委員会(法林寺)
- 1月31日 登録事務説明会(法林寺)
- 2月1日 訓練チーム会議(法林寺)
- 2月3日 中央小地区リーダー会(法林寺)
- 2月4日 地区コミッショナー会(法林寺)
- 2月5日 進歩委員会(法林寺)
- 2月10日 西部小地区リーダー会
- 2月11日 班長訓練野営下見
- 2月13~14日 第2回救急法講習会(青少年の家)
- 2月14日 D Mスタッフ研修会(青少年の家)
- 2月16日 財政委員会(法林寺)
- 2月16日 8 NJ編成隊長会議(法林寺)
- 2月17日 南部小地区リーダー会
- 2月19日 B Sリーダー会(法林寺)
- 2月21日 南部小地区B-P祭
- 2月21日 西部小地区B-P祭
- 2月25日 団委員長会議・地区委員会合同会議(法林寺)
- 3月2日 地区コミッショナー会(法林寺)
- 3月3日 中央小地区リーダー会(法林寺)
- 3月4日 野営行事委員会(法林寺)
- 3月7日 登録事務受付(法林寺)
- 3月10日 西部小地区リーダー会
- 3月12日 C Sリーダー会(法林寺)
- 3月15日 訓練チーム会議(法林寺)
- 3月17日 南部小地区リーダー会
- 3月21~24日 第17期班長訓練野営(川字連野営場)
- 3月25日 地区委員会(法林寺)
- 3月28日 中央小地区D M研修会
- 3月28日 南部小地区D M研修会
- 4月2日 班長訓練野営反省会(法林寺)
- 4月4日 D Cスタッフ研修会(曳馬公民館)
- 4月5日 8 NJ編成隊長会議(法林寺)
- 4月6日 地区コミッショナー会(法林寺)
- 4月7日 中央小地区リーダー会(法林寺)
- 4月8日 地区委員長・副委員長会議(法林寺)
- 4月9日 訓練チーム会議(法林寺)

発行所

第87号

日本ボーイスカウト浜松地区
〒430 浜松市松江町72 T E L (0534)53-7236
編集発行責任者 山中将司
印刷所 (株)朝日堂印刷所
昭和57年4月25日発行